

# 平成16年度 施政方針



蒲郡市長 金原久雄

昨年は、「マニフェスト」が流行語にもなった選挙の年であり、おかげさまで、私も引き続き市政を担当させていただくことになりました。市制50周年という記念すべき年を、市長として迎える縁と責任を、胸にずしりと感じております。また、一方では、「子ども受難」の年でもありました。児童の連れ去りや虐待事件などが相次ぎ、子を持つ身として、何ともいたたまれない思いでありました。蒲郡市では、こうした事件は決して起こさせてはならないものと強く思っています。

私は、「議会制民主主義を尊重し、市民の心を市政につなぐ」を市政推進の基本理念に、

## 第1に「安心のまち蒲郡」

## 第2に「自然と共生するまち蒲郡」

## 第3に「明るく元気なまち蒲郡」

の三つを基本施策の柱として、まちづくりに全力で取り組んでまいりました。今後も、この基本理念を堅持いたします。本年は、特に、人口減対策を含め、将来の蒲郡を担う「子どもたち」に力を置き、子どもたちがのびのびとたくましく育つことのできる「文化の薫り高い、教育の充実した、安全のまち蒲郡」づくりを進めたいと思います。なお、市政運営には「市長への手紙」や「市長対話・ざつくばらん」などを通し、市民の皆様の声を十分お聞きし、反映していくことを心がけてまいります。

本年は、市制50周年を記念し、さまざまな記念事業を実施してまいります。記念事業のキャッチフレーズは「人が好き、まちが好き、海が好き、山が好き、蒲郡が大好き」であります。この機会に、多くの先人の知恵と努力によって築かれた「50年目の蒲郡市」を、市民の皆様とともに祝い、かつ見つめ直し、蒲郡市を更に発展させ、後世に引き継いでいかならないと思っております。

このような事業を行うにあたり、本年度の予算編成につきましましては、財政難の中、限られた財源の重点的かつ効率的な配分に留意いたしました。また、人件費の抑制を行うとともに、行政改革や事務事業評価により、事務の効率化、経費の節減、職員の資質向上を図り、最少の経費で最大の効果をあげるように努めてまいります。

市民の皆様には、施策の遂行および50周年記念事業へのご理解とご協力をお願い申し上げます。